

中国人留学生の使う日本語について：母国語(中国語)の影響

著者	エン 玲
著者所属(日)	平安女学院大学国際観光学部
雑誌名	平安女学院大学研究年報
巻	13
ページ	29-40
発行年	2013-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1475/00001304/

中国人留学生の使う日本語について

— 母国語（中国語）の影響 —

鄢 玲

はじめに

日本法務省の統計データによると、平成22年入国した中国人（台湾、香港などを含む）は347.7万人（うち、短期滞在は275.9万人、留学・就学は13.8万人）にも達している。平成23年は273.4万人（うち、短期滞在は193.1万、留学は15.98万）となっていて、東日本大震災による放射能の影響で、観光などで入国する短期滞在者は平成22年より大幅に減る一方、留学生の数は増えてきている。

日本政府は経済刺激のため、「観光立国」の方針を定め、中国人、特に個人観光客を対象に、査証の申請条件を更に緩和することになった。しかしその一方、民間では、中国人は声が大きくてうるさい、マナーが悪い、ストレートに物事を言うから嫌いと思う人は少なくない。さらに、中国人は日本に来てほしくないとはっきり言う人もネットではよく見かける。

歴史や政治、教育などの見解の相違から、確かに中日両国の人は「中国／日本が好きですか」と大雑把に聞かれると、「嫌いです」と答える人は多いだろう。しかし、中国人でも日本人でも、目の前にこの隣国の人がいたら、誰でも優しく接してあげて、中国人／日本人だから嫌いだと思う人はおそろくないと思う。ところが、ちょっと深く付き合っていくと、今度は習慣の違いなどによって本気にお互いに嫌いになってしまうケースも多い。

では、なぜこのようなことが起きるのか。

本稿は言葉遣いの面から、つまり中国人が無意識に使っているもっとも日常的な日本語、しかしそれなのにもっとも間違いやすい日本語を掲げ、且つその間違いやすい理由とそこに起きる誤解を取り上げ、その原因を考察していきたいと思う。

1) 「あなた」について

状況例1

洪剛：あなたたちは何を見ているのですか。

小川：私たちは先生の写真を見えています。

山本：わあ、先生は小さい頃は本当に可愛かったんですね！

先生：どういう意味？

山本：ああ、まちがえました。先生は小さい頃も可愛いでした。

先生：そういうことです。（直訳：それでやっと正しい。）これは私の（父方の）おじいさんで、よく私に歌（を歌うこと）を教えてくださいました。

于静：先生のおじいさんは声楽家だったんですか？

先生：いいえ、彼は俳優でした。

（出典：中国語教材『ともだち・朋友』第13課、中国語会話文の日本語訳文）

上記の会話には、なんだか違和感が感じられる。もし会話文を下記のように直したら、自然になる

でしょう。

洪剛：あなたたちは何を見ているのですか。

小川：私たちは先生の写真を見えています。

山本：わあ、先生は小さい頃は本当に可愛かったんですね！

先生：どういう意味？

山本：ああ、まちがえました。先生は小さい頃も可愛いでした（ここは印刷ミス。⇒可愛かったです）。

先生：そういうことです。（直訳：それでやっと正しい。）これは私（父方の）おじいさんで、よく私に歌（を歌うこと）を教えてくださいました。

于静：先生のおじいさんは声楽家だったんですか？

先生：いいえ、彼は俳優でした。

「中国語は語順が命である」とよく言われるが、その語順は、
（連体修飾語＋）主語＋（連用修飾語＋）述語＋（補語＋）目的語
となる。主語は一番最初にきて、省略されてはいけない。中国の有名なバラエティ番組「快樂大本营」には、「不説你我他」（「あなた、わたし、かれ」を使わない）というシリーズがある。そのルールとしては、会話の中に「あなた」、「わたし」と「かれ（かのじょ）」を使ったら、罰が与えられる。ごく簡単なルールだが、一回も罰されていない人はいないぐらいだった。つまり、人称代名詞（あなた、わたし、かれ）を使わないと、中国語は成り立たない。

この中国語規則の影響で、第一人称と第二人称がよく省略される日本語を使うときにも、自然に第一人称と第二人称を使ってしまう。決して自己主張が強いからではない。冒頭に挙げた教科書の例は、中国語をそのまま日本語に訳しているから、不自然さが感じられる。

一方、日本語は、主語（わたし、あなた）が省略されるのが一般的だ。

日本語には、第一人称の「私」に当たる言葉は、わたくし、わたし、あたし、ぼく、おれ、自分、わしなどがあげられる。場合によっては、自分のことをママ、お母さん、パパ、お父さん、おばあさん、おじいさん、お姉さん、お兄さん、おばさん、おじいさんなどとも呼ぶ。また、第二人称の「あなた」に当たる言葉はあなた、きみ、お前、貴様、あんたなどいろいろあって、一定でない。

しかし、日本語にはこのように色々な第一人称「わたし」、第二人称「あなた」があるにもかかわらず、ものを言ったり、文章を書いたりするのに、これらをまったく用いないで済ますことがしばしばある。逆に、多くの場合はこの「わたし」とか「あなた」を出さないで言うほうが日本語らしい。

特に、日本語の「あなた」は、強い意味を帯びている。たとえば、国際結婚で生まれた自分の子に、前触れもなく突然「あなた」と呼ばれたら衝撃を受けるでしょう。会社の上司を「あなた」と呼んだら、周りの雰囲気はさっと緊張するに違いない。田中克彦（1993）は「中国に建設された日本の工場に働く中国人が、職場の上役であるその工場長に、『あなたは…』と話しかけたために、生意気だとくびにされた」というエピソードを紹介している。

日本人は自分の主張、判断を和らげるため、通常、主語の「わたし」を省略し、「自発型」をよく取る。つまり誰が行動したとか、判断したとか言わずに、自然の成り行きに任せるという点は極めて日本的な発想である。これによって「自分」を表に出すのを控えるとともに、自分の感情の発生を「自発」に帰属させることで、自分ひとりのみならず、皆に共感される主張や判断になるのである。

この「自発型」表現が日本語勉強のいわゆる動作の対象物に注目する自動詞と、動作している人に注目する他動詞を区別するのが、一大難点としてなかなか中国人には把握できない。中国語の命である語順の影響で、自然的に動作している人を主語として最初に持ってきてしまうので、自分を強く主張するイメージを人に与えてしまう。

2) 「うん」 or 「はい」 について

状況例2

先生：王さん

留学生：はい

先生：先週の学生祭典、行きましたか。

留学生：うん、行きました。

先生：どうだった？

留学生：うん、とても面白かったです。

先生：そうですか。写真とか撮ってある？

留学生：うん、あります。

先生：じゃ、それを使って、ブログ書いてもらえる？学校のホームページに載せるから。

留学生：うん、わかりました。

(出典：筆者作成例)

「はい」、「ええ」、「うん」は日本人の日常的に使われる最も基本的な語の一つである。日本人は無意識的にこれらを分けて使っているが、一般的に、「はい」がもっともフォーマル／丁寧で、「うん」がインフォーマル／くだけた表現で、「ええ」はその中間的に位置する。

しかし、例のように、中国語母語者は相手を区別せず、たとえ目上の人に対しても、よく「うん」と答える。これも中国語に影響される典型的な例である。日本語の「はい」は質問の種類、意図に関係なく応答できる万能返事だが、中国語の「^ん嗯 (中国語の発音：「うん」)」はこれに似ていて、万能の肯定回答と言える。

三宅和子(2001)は「はい」の機能を17種類にまとめた。各種類の「はい」は日本語の「うん」、そして中国語の「^ん嗯」に置き換えられるかどうかを表にまとめてみよう。

表1 日本語の「はい」と「うん」及び中国語の「^ん嗯」との比較説明表

「はい」の機能	例 文	「うん」に置き換えられるか	「 ^ん 嗯」に置き換えられるか	中国語訳文
①Yes-No疑問文に対する応答	A: 明日、いらっしゃいますか B: <u>はい</u>	△	○	A: 明天来吗? B: <u>嗯</u> , 来。
②確認	A: 来年太郎君は一年生ですね(～だろう／ではないですか) B: <u>はい</u>	△	○	A: 明年你(太郎)就一年级了吧。 B: <u>嗯</u> 。
③要求に対する了解	A: これを田中さんに渡してください B: <u>はい</u>	×	○	A: 把这个给田中。 B: <u>嗯</u> , 好。
④呼びかけに対する返事	A: 鈴木さん B: <u>はい</u>	×	×	
⑤共同で行う行動のスタートの合図	(皆で何かを持ち上げている) いち、にいの、さん、 <u>はい</u>	×	×	
⑥あいでの	A: それでは、次をみてもらうと B: <u>はい</u> A: 分かります、思うのですが。	×	○	A: 那么, 接下来往下看… B: <u>嗯</u> A: 应该就会明白了吧。

⑦「そうですか」に対する応答	A: きのう、電話で予約をしたのですが B: あ、そうですか A: はい	×	○	A: 我是昨天打电话预约的。 B: 啊, 是吗。 A: 嗯
⑧「そうですか」の先取り応答	店員: こちらがよろしゅうございます。 顧客: そうですか 店員: はい	×	○	店員: 这个好。 顧客: 是吗。 店員: 嗯
⑨何かを提示する場面	(箱入りのケーキを出しながら) はい、おみやげ	×	×	
⑩行動指示をする場面	(映画の開始にあたって) はい、スタート	×	×	
⑪中止の合図	(生徒が作業を続けているときベルの音がして) はい、じゃあ止めてください	×	×	
⑫話し相手のターンが終わったことを示す合図	(授業で A: 生徒、B: 教師、C: 司会の生徒) A: わたしは「弱み」というところに線を引きました B: はい C: O さん	×	○	(課堂上。A: 学生、B: 教师、C: 学生主持) A: 我在“弱”这边划了线。 B: 嗯 C: 小 O
⑬注意喚起	(教室で騒いでいる生徒に) はい、はい、M さん、はい、T さん、K さん、はい、お願いします。	×	×	
⑭相手のコメント要求指標の認知と了承	例文なし			
⑮コメント続行要求	例文なし			
⑯コメント終了の意図表明	例文なし			
⑰リズムとり	例文なし			

以上のように、「はい」の最初の 13 個の機能のうち、日本語の「うん」に置き換えられるのは 2 つしかなく、しかも正確とも言えないのに対して、中国語の「嗯(うん)」に置き換えられるのは 7 つにも達している。もちろん、答えのうち、「嗯(うん)」よりもっと正式な答えは「嗯(うん)」を省略したり、「对(正しい)」「是(はい)」で答えたりなども挙げられるが、「嗯(うん)」自身は誤用ではない。

「嗯(うん)」は肯定の応答語・相槌語として汎用されるが、その影響を受けて、日本語を話しても自然に「うん」を口にしてしまう。

2007 年横浜市小学校の男性校長が学校だよりに、「はい」と言えず「うん」と返事する小学生を「うん子」とタイトルつけて、「(児童に)『わかったのかな』と聞くと『うん』。もう腹が立ってきて『うん、じゃなくてはいでしょ』という、やっぱり『うん』。おまえは『うん子』かと怒鳴りたくなるわたしのこの気持ちわかってもらえますでしょうか」と書いてある。この文章は人権意識に欠けたと

相次いで批判され、この問題はさらに市議会決算特別委員会にも取り上げられた。

「はい」と「うん」をこのように大事にしている日本人から見れば、「うん」をいつも口頭にする中国人はいかに傲慢で礼儀が悪いことだろう。

3) 「いい」について

状況例 3-1

先生：それでは、聴解練習に入りますね。

留学生1：うん、いいよ。

先生：(汗) この場合は、「いいよ」とは言わないですね。さあ、何と言ったらいいのでしょうか。

留学生2：いいですよ。

留学生3：いいですね。

留学生4：よろしいですね。

(出典：筆者の中国人留学生向けの授業)

状況例 3-2

(コンビニのレジで)

店員：袋はどうされますか。

中国人：はい、いいです。

店員：(袋を渡さずに) ありがとうございます。

中国人：(あれ? 「いる」と言ったのに) あのう、袋をください。

店員：(あれ? 「いらぬ」と言ったのに) はい、かしこまりました。

(出典：多くの留学生が経験したこと)

「いい」は「よい」とも言い、中国人が使っている日本語教材では、ほぼその意味を中国語の「好^{hào}」と訳している。

確かに、日本語の「いい」は多くの場合、中国語の「好」に当てはまる。たとえば：

①形容詞として名詞を修飾する

いい人 ⇒ 好人 いい事 ⇒ 好事 いい天気 ⇒ 好天气

②述語や補語に立つ

• この仕事はたいへんよい。⇒ 这个工作特别好。

• 病気はだいぶよくなった。⇒ 病好多了。

③疑問文で相手の意向や意見を問いかける

• 一緒に行ってもいいですか。⇒ 一起去好吗?

• どうすればいいですか。⇒ 怎么办才好?

しかし、中国語の「好」は各種の感嘆、応答の言葉としても用いる。

例1 A：再多吃点。(もうちょっと食べて。)

B：嗯，好。(はい。)

例2 A：麻烦来瓶啤酒。(すみません、ビールを一本ください。)

B：好的。(はい、わかりました。)

例3 A：老师，我可以回去吗？(先生、帰ってもいいですか。)

B：好的。(いいですよ。)

以上のように、応答の言葉として用いる場合は、中国語の「好」は、例1の「応答、同意」として

の「はい／ええ」でもあるし、例2の「了解」の「わかりました」、そして例3の「許可」意味での「いいです」でもある。

冒頭に挙げた例の学生の答えは、おそらく例1で使われた「はい」を答えたく、中国語の「好」をそのまま日本語に訳して、「いいよ」になったわけだろう。

立場を変えて、日本語の「いい」は応答の言葉として用いる場合、どのような意味になるのを見よう。

例4 A：これから飲みに行くけど、一緒に行かない？

B：いいね。行く行く。(友達同士：賛成、感嘆)

例5 A：先生、鉛筆使ってもいいですか。

B：いいよ。(目上⇒目下 or 許可権利を持つ人：許可)

例6 店員：袋はどうかさいますか。

客：いいです(結構です)。(断る)

応答の言葉として用いる場合、中国語の「好」と日本語の「いい」の使い方を下記の表にまとめてみよう。

表2 中国語の「好」と日本語の「いい」の使い方の比較説明表

意味	中国語 (好)	日本語 (いい)
賛成、感嘆	○	△ (友達同士のみ)
応答、同意	○	×
了解	○	×
許可	○	△ (目上⇒目下のみ)
断る	×	○

以上のように、中国語の「好」と日本語の「いい」は、応答の言葉として用いる場合は、ほとんど違う機能を持つため、中国語の感覚で「好」をそのまま日本語の「いい」に訳すると、間違いや誤解が起きるのは間違いない。

4) 「～てください」について

状況例 4-1

- (学生が先生に) どうぞ、座ってください。
- (先生に、講義の内容をもう一度説明していただきたいとき) 先生、もう一度説明してください。
- (部下が課長に) 課長、この稟議書ですが、サインしてください。

(出典：筆者作成例)

状況例 4-2

(ある日、教室で)

留学生：先生、どうぞ座ってください。

先生：どうもありがとう。でも、「どうぞお座りになってください」や「お座りください」という言い方のほうが丁寧ですよ。

留学生：はい、わかりました。

(数日後)

留学生：先生、どうぞ推薦状を書いて、あ、違った、お書きになってください。

先生：???

留学生：(あれ、丁寧に言ったのにな)先生、どうぞ推薦状をお書きください。
 先生：こういうときには、「書いてくださいますか」という言い方がいいですよ。
 留学生：はい(うーん、難しい)。
 (数日後)
 留学生：先生、疲れているようですから、どうぞ座ってくださいませんか。
 先生：??(うーん、難しい…)。

(出典：『日語和日本文化』)

中国で伝統的な日本語教材『精編日語』『標準日本語』を抜いて、各大学に広く採用されている日本語教材『総合日語』の「～てください」を見て見よう。

「ください」は動詞「て」形に接ぎ、相手に何かをお願いするときに使う。中国語の「请～；～吧」などに相当する。「V(動詞)+てください」は一般に年上や目上の人には使わない。(中国語解説：「ください」接在动词第二连用形「V(動詞)+て」的后面，表示请求对方做某件事，相当于汉语的“请～；～吧”等。「V(動詞)+てください」一般不能对长者或上级使用。)

この文型の例として3つの文を挙げた。

- (1) それを見せてください。
- (2) 日本語を教えてください。
- (3) ここに電話番号を書いてください。

さらに、いくつかの動詞を列挙し、ドリル練習させる。

例 教える → 教えてください

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| (1) 読む | (2) 立つ | (3) 合わせる | (4) 開ける |
| (5) 掃除する | (6) 発表する | (7) 行く | (8) 来る |
| (9) 話す | (10) 見る | (11) 書く | (12) 泳ぐ |
| (13) 遊ぶ | (14) 帰る | (15) 会う | |

このような解説&練習を通して、「Vてください」文型を学習者に覚えさせる。

また、教師は教室でもっとも多く使っている言葉は「読んでください」「聞いてください」「考えてください」「答えてください」「立ってください」「座ってください」などである。学生はその意味をそれぞれ中国語の「请读一下」「请听」「请大家思考一下」「请回答」「请起立」「请坐」と捉え、もちろん、この場合の「～てください」の意味が正しく理解されている。しかし、これで日本語の「～てください」は中国語の「请」にイコールするとも学生に誤解されてしまう。

『中日辞典』によると、中国語の「请」の意味は以下の五つがある。

- 1 頼む、お願いする
 例：请您多加指导。(よろしくご指導願います)
 请大家想想办法。(どうしたらよいか、みんなで考えてください。)
- 2 招く、呼ぶ、招聘する
 例：请他担任顾问。(彼に顧問になってもらう)
 请你参加大会主席团。(どうぞ大会の議長団に加わってください。)
- 3 (宴会に) しょうたいする、ごちそうする
 例：他请过我。(彼はごちそうしてくれたことがある。)
 他请你看两次电影。(彼は君を2度映画を招待したことがある。)
- 4 〈敬〉(敬語として) どうぞ(…してください)

例：请坐。(どうぞお掛けください。)

请准时出席。(どうぞ定刻にご出席ください。)

请安静。(どうぞお静かに。)

5 〈旧〉(旧い用法として)(仏壇・ろうそく・線香などを)買う

例：请了一架佛龕。(仏壇を一つ買った。)

このうち、5 以外は日常会話の中に、よく使われている。

さらに、4 の敬語としての「どうぞ」の日本語訳文を見よう。

- 请坐。(どうぞお掛けください。⇒ 勧誘)
- 请准时出席。(どうぞ定刻にご出席ください。⇒ 依頼)
- 请安静。(どうぞお静かに。⇒ 指示・命令)

つまり、中国語の「请」は敬語として、人を勧誘したり、依頼したり、さらに丁寧に指示や命令を出したりする。

一方、浦谷・川口・坂本(1998)『敬語表現』によると、日本語には敬語表現としての勧誘や依頼、指示や命令するとき、下記のように典型的な表現はいくつかある。

表 3 勧誘や依頼、指示や命令の典型的な日本語表現

表現意図	典型的な表現
勧誘	～しませんか／～しましょうよ
依頼	～してもらえますか／～してくれませんか
指示・命令	～してください／～しなさい

このうち、指示・命令以外、どちらも「～てください」を使わない。つまり、「～てください」はほとんどの場合、人に勧誘や依頼機能を持たないし、逆に人に指示や命令するイメージを与えてしまう。

中国人は丁寧な気持ちで中国語感覚の「请」つまり「～てください」を使うのに、逆効果を招いてしまうのも当たり前のことだろう。

5) 「～なければならない」について

状況例 5

(風邪を引いた友達に)

留学生：風邪を引いたときは、お湯を多めに飲まなければならない。夜は早めに寝なければならないよ。

友 達 (迷惑なんかもかけてないのに、なんで口調が硬いのでしょうか?)：はい、わかりました。

(出典：筆者作成例)

中国は世界一スローガンが好きな国だと言われている。確かに、昔から中国では色々なスローガンがある。特に、1949 年中華人民共和国が建国されて以来、共産党と政府は自らの方針や政策を国民に周知させ、それに従わせるために、いつも何らかのスローガンを打ち出して全国的に広げようとする。たとえば、毛沢東時代の「一切の反動派を打倒せよ」(打倒一切反动派!)、鄧小平時代の「改革開放を大いに進めよう」(大力推进改革开放)、江沢民時代の「中華を振興せよ」(振兴中华)、及び胡錦濤政権の「協調社会を建設せよ」(构建和谐社会)など、時代それぞれの政府方針が反映されている。また、中国の一人っ子政策に関するスローガンは「子供を育てず、豚を育てよう」(少生孩子多养猪)、「一人っ子半政策。男の子を産んだらもう産まない、女の子を産んだら4年は産まない」(一

胎半政策。生男不再生，生女間隔四年生。）などが挙げられ、一番恐ろしいスローガンは「墮ろせるものは墮ろす、流せるものは流す、そうすれば生まれぬ」（打出来！墮出来！流出来！就是不能生下来！）で、80・90年代の人口問題の厳しさと、その政策の残酷さがわかる。そして、学校では「よく勉強し、日々向上する」（好好学习，天天向上）、「現代化に向け、未来に向け、世界に向けて」（面向現代化，面向世界，面向未來）、「祖國の四つの現代化建設を実現するために努力する」（为实现祖國的四个現代化建設而努力）、「合格な21世紀の社會主義建設の後継者になろう」（做一名合格的21世紀社會主義接班人）など、励ましのスローガンがたくさん挙げられる。すべてと言えるほどの学生は街角や学校の構内のスローガンに囲まれて大きくなる。

スローガンに囲まれている中国人は必ずしもその内容を信じてはいえないし、もちろんスローガンに沿って行動するわけでもない。ある意味では、スローガンは単なるポーズのものに過ぎない。しかし、何年も大量のスローガンを暗証させられた学生は、無意識にその影響を受けている。たとえば、中小生はよく作文の最後に「毎日よく勉強して日々向上し、愛する祖國のために尽くしたいです。」中国人留学生はよく大学・大学院への留学の希望動機に、「将来は微力ながらも全力を尽くして、中日の架け橋になりたい。」と書く。これはまさにその影響の証と言えよう。

また、話し言葉では、志を立てる言葉である「必須・得・要」、つまり日本語の「～なければならぬ」にイコールする言葉が多く使われる。

中国で一番人気がある検索サイト「百度」で「必須」「得」「要」を入力して検索したら、いずれも100,000,000件（最大件数、これ以上の数字が出ない）の結果が出てきた。一方、「～なければならぬ」をヤフージャパンで入力して検索したら、約53,600,000件（2013年1月19日時点）の結果が出た。このデータでも若干中国語の表現習慣を知ることができるだろう。

作例の留学生は風邪を引いた友達に、「感冒的時候要多喝水，要早点睡」と言いたく、正しい日本語でいうと、「風邪を引いたときは、お湯を多めに飲み、早めに寝たほうがいいよ」となる。優しいアドバイスなのに、命令形に訳したので友達の誤解を招いてしまう始末だ。

6) 「おいしいのリンゴ」? について

状況例6

（「一番近い解釈は、4です。ここで、このドイツ人留学生の階下に住んでいる田中さんが同じことをどう見たかを考えてみましょう」という文章を中国人留学生に読ませる。）

留学生：一番近いの解釈は…

筆者：「の」はないよ。

留学生：はい。一番近いの…

クラス全員：「の」はない。

留学生：わたし、「の」言っていないよ。

クラス全員：言ったよ！

留学生：えっ？そうですか？

（出典：筆者が担当している授業で）

例のように、中国人は字を見ながらでも、無意識に名詞修飾形に「の」をつけてしまうことがしょっちゅうある。よく中国人留学生の日本語を聞いたら、「おいしいのりんご、きれいの花、私が作ったのご飯、いつも行くのお店」など、余計な「の」が出てくることがわかる。

日本語の名詞修飾形（連体修飾形）として、下記の四つに分けられている。

名詞+の+名詞 ⇒ 私の本

形容詞（「い」で終わる形容詞のこと）＋名詞⇒やさしい本

形容動詞（「だ」で終わる形容詞のこと）＋な＋名詞⇒簡単な本

動詞の普通形（辞書形、ナイ形、タ形など）＋名詞⇒彼が書く本、彼が書いている本、彼が書いた本

つまり、名詞、形容詞、形容動詞、そして動詞の名詞修飾形はそれぞれ相応の形がある。これに対して、中国語の名詞修飾形は、名詞、形容詞（日本語の形容詞と形容動詞の両方を含む）または動詞、いずれもその後に「的」をつける。

名詞＋的＋名詞⇒我的书（私の本）

形容詞＋的＋名詞⇒简单的书（簡単な本）

動詞＋的＋名詞⇒他写的书（彼が書く本、彼が書いた本），他正在写的书（彼が書いている本）

このため、日本語を言うときは、無意識に「的」つまり日本語の「の」がついてしまう。

7) 「友達になってほしい」? 「友達になりたい」? について

状況例 7

誤 1 僕は日本人の方と友達になってほしい。

誤 2 明日、図書館へ行きたいつもりです。

誤 3 弟は旅行したいです。

誤 4 私は来週旅行に行くと思っています。

誤 5 王さんは今の仕事を辞めたくないつもりです。

誤 6 私はカメラマンになるつもりです。

（出典：筆者の日本語クラスの学生の宿題）

日本語においては、自分の動作に対する主観的な希望を、動詞に「～たい」「～たがる」をつけて表現する。動作主体が第一人称または第二人称の場合は「～たい」を使い、第三人称の場合は「～たがる」を使うことが多い。また、第二人称に対する第一人称の希望を表すには「～されたい」という表現が用いられる。さらに、「～たい」の後ろに「と思う／思っている」をつけて自分の願望を丁寧に相手に伝えている。動詞の意志形「～(よ)う」も自分の意思を表すことができ、「～たい」と同じようにその後ろに「と思う／思っている」をつけることができ、自分はどのような意思を持っているかということと比較的客観的に表現する。「～つもりだ」は「～(よ)うと思う」に近い意味を持ち、意志動詞の基本形に接続し、ある意志を以前から持っていることをやや客観的に表す。そのほか、物事を所望する場合は「体言＋がほしい」、他者の動作に対する希望は「～てほしい」などのように表現する。

中国語にも、意志動詞として一人称や三人称に区別せずに、「想」「想要」「打算」などが挙げられ、いずれも頭の中で「～しよう」と考えている。「想」は漠然と希望してるのに比べて、「想要」や「打算」のほうがやや具体的なイメージだ。物事を所望する場合は「想要＋体言」、他者の動作に対する希望は「想让＋動作者」のように表現する。要するに、中国語の「想」は一人称や、二人称と三人称に通用できるし、自分の動作や物事に対する主観的な希望を表せるし、他者の動作にも希望を表すことができる。また、今現在の意志だけでなく、以前から持っている意志も表現できる。

この日本語の自分の意志表現「～たい、～たがる、～と思う、～つもりだ、～てほしい」はすべて中国語の「想」で表現できるため、中国人の日本語学習者にとって、その使い分けが実に難しい。上記の誤用例を中国語に訳してみよう。

誤 1 (中国語)：我想和日本人交朋友。

誤2 (中国語)：明天，我想去图书馆。

誤3 (中国語)：弟弟想去旅游。

誤4 (中国語)：我下周想去旅游。

誤5 (中国語)：小王不想辞去现在的工作。

誤6 (中国語)：我想成为摄影师。

一つの「想」で、日本語でこのように詳しく分けているのは、なかなか中国人には十分理解し運用できない。特に丁寧語としての「～たいと思う／思っている」「～(よ)うと思う／思っている」はどうしてもうまく中国語に訳せず、「～たい」も「想」であり、「と思う」も「想」であるため、混乱してしまう。中国人は大体中学生（現在は小学生）のときから英語を習い始めるため、筆者はいつも英語を利用して日本語のこの「～たい、～たがる、～と思う、～つもりだ、～てほしい」を学生に説明する。

～と思う = Think ～たい = Want ～つもりだ、～(よ)う = Will/be going to do

～たいと思う = (I) think (I) want~

この三つがちゃんと区別できるなら、残りの「～たがる」と「～てほしい」は簡単に使い分けられる。つまり、第三者が何かしたい場合は、「～たい」ではなく、「～たがる」になる。また、「～てほしい」は誰かが自分のために何かやってもらいたい場合に使う。

おわりに

日本では、挨拶や正しい言葉を使うことが内容よりも大切な場合もある。また直接的な意見やもの言いはよくないとされているので、個性や強い個人的意見や依頼を抑える傾向にある。中日両国の人にはことばや習慣の違いからくる誤解や摩擦が多い。本文は最も日常的な例を通して、なぜ誤解が生まれるのか、そのメカニズムの解明にまで踏み込み、皆さんとともに国際理解について考えてみた。

言葉は数式のようにイコールで置き換えられない。また言葉は、他の言葉を連想させる働きもある。連想されるものは人によって違い、言語や文化によっても違う。そして、ある言葉は、他の言語に当てはまる単語がない場合もある。さらに、同じ単語で同じ意味に解釈されているのに、受け取られるニュアンスがまったく違うものもある。

彭飛 (1994) は「日本語は繊細な心づかいを込めた気配り表現が、極めて豊富な言語である。これは日本語の美しさを代表する一つの大きな特徴でありながら、国際交流において、文化摩擦を発生させる元凶になりかねない」と言っている。

異文化コミュニケーションの難点は、言葉自体ではなく、会話方法の違いによって起こるものである。最近では、日本語のテキストやN1日本語能力試験にもその傾向が現れていて、昔のような文法とか発音、語彙に集中するのではなく、会話や文の流れに沿ったものに主流が変わった。中日両国の人はお互いの文化や習慣を理解できるなら、ある程度うまくできるようになるだろう。

参考文献

- 1) 芳賀綏 (1979) 『日本人の表現心理』
- 2) 浦谷宏・川口義一・坂本恵 (1998) 『敬語表現』 大修館書店
- 3) 彭飛 (1994) 『「ちょっと」はちょっと… ポン・フェイ博士の日本語の不思議』 株式会社講談社
- 4) ポール&カーティス&エリ・ケリー (1990) 『ケリーさんのすれちがい100 日米ことば摩擦』
- 5) 外山滋比古 (1993) 『ことばと人間関係 —「ひとこと」の重さを知っておきたい』 チクマ秀版社
- 6) 金谷武洋 (2002) 『日本語には主語はいらない』 株式会社講談社

- 7) 孫満緒 (2007) 『日語和日本文化』 外語教学与研究出版社
- 8) 田中克彦 (1993) 『言語学とは何か』 岩波新書
- 9) 赤坂和雄 「日本人の言語コミュニケーション」 日本コミュニケーション学会、橋本満弘・石井敏 (1993) 『コミュニケーション基本図書第2巻 日本人のコミュニケーション』 株式会社桐原書店 P82-103
- 10) 三宅和子 (2001) 「「はい」、「ええ」、「うん」の言語行動」 『第13回日本語教育連絡会議発表論文集』 13回日本語教育連絡会議事務局 pp.47-56
- 11) 法務省ホームページ www.moj.go.jp
- 12) 『中日辞典』 北京商務印書館・小学館

【キーワード】 中国人日本語学習者、異文化コミュニケーション、ことば

Negative Influences of Native Language (Chinese) on Chinese Learners' Use of Japanese as a Foreign Language

YAN, Ling

With the deepening of relationships between China and Japan, millions of Chinese come to Japan every year for the purposes of work, study and tourism. It is true that we can find striking similarities between the two countries and peoples in some respects, but it is also true that we can see a number of differences in other respects. And it is precisely from these differences that misunderstanding between the Chinese and the Japanese often arise. In many cases, such factors as the two countries' socio-cultural, ideological as well as linguistic differences seem to play a major role in the breakdown of communication. This paper tries to identify the causes for misunderstanding by citing some examples of Japanese expressions which are most frequently used, and often times mistakenly used, by Chinese learners of Japanese as a foreign language.